



はじめてのウィッグ取説 着用の仕方からアレンジまで

コスプレ用 ウィッグ使い方 A to Z

photo 大関敦 井上依子 (YOL) model 桜崎つかさ text 飯塚恵美 ヤマトアサコ
取材協力 クラッセ <http://www.classewig.com/wig/> アシストウィッグ <https://www.assist-wig.com>

コスプレに必須の「ウィッグ」ははじめてで選び方や付け方に不安がある方。これまで自己流でやってきたけど、扱い方に不安のある方。ウィッグ屋さんに使い方を聞いてみた

カラーサンプルブックを 見てみよう



サイトで選ぶのもよいが、実際の繊維(ウィッグの毛)のサンプルも見てみたい。キャラクターの画像を用意し、実際の毛束を当てて色選びして、自分の地肌との比較もできる

加工する時

立ち上げヘアもがっちり固まる。ウィッグ加工専用のオリジナルハードスプレー
スーパーガチスプレー SGS ¥730 / クラッセ

着用する時



ウィッグ
何よりこれが必要。なりたいキャラクターに近いものをを用意しよう

鏡

頭全体が映る大きめのもの。サイズがあれば安くてもOK

ウィッグネット

ウィッグを購入時に付いてくるネット状のインナーキャップ。これで地毛をまとめる

キャラクター資料

顔と髪型がわかりやすいもの。できれば印刷しておくウィッグ保管時同封でき便利

ヘアピン

黒と金のどちらかが10本以上あれば無難。ウィッグの色に合わせるとなお良い

お手入れする時



何を買いばいいかわからない人はまずこれ。必要なものが一式揃ってお得。ウィッグアレンジキット ¥4,212 / クラッセ

Q: 初心者向けはどれですか?

A: 初心者の方には毛量が少ないタイプがオススメ。多い場合はスキバサミで量を減らそう。ベリーショートやカールロングなど、スタイルが仕上がってれば前髪の長さを少し切って合わせるだけで使用できる。自分の頭に被せてから地毛と同じようにヘアアレンジできちゃうよ。

Q: 耐熱と非耐熱の違いは?

A: 耐熱ウィッグはコテやホットカーラーで加工できる(アイロン温度160℃前後が適温)地毛と同じようにヘアアレンジが可能。ただしショップによってお値段高め。非耐熱ウィッグは安価な代わりに熱に弱く、コテやホットカーラーをあてると毛の繊維が溶けて縮んでしまう。自分でヘアアレンジしたい場合は耐熱ウィッグをチョイスしよう。

ウィッグスタンド

3つのプラスチックパーツを組み合わせて作る。ウィッグをかぶせて立たせておける

ウィッグブラシ

金属製なので静電気が起こりにくいウィッグ用のヘアブラシ。くしも使おう

専用ポーチ

意外とかさばりやすく散らかりやすい。透明のポーチなどに一式入れておくと使うとき楽だよ

ウィッグスプレー

ウィッグの繊維に吹きかけることで絡みと静電気を防いで、サラサラをキープする

リボン

ロングウィッグは束ねて保管したほうが絡み防止になる。結べればなんでもOK

ダッカール ヘアクリップ

カットやセットするときに多めに用意しておきたい

持っておきたいウィッグセット 必携アイテム

ハサミ

ステンレス製のハサミがおすすめ。文具用ハサミでも十分に使えるが、高価だが髪用のハサミは切れ味がよく、ロングからショートにカットする時に手元が楽。



すきバサミ

セニングシザーとも呼ばれている。慣れていない人には普通のハサミより、すきバサミのほうが自然な毛先に仕上げやすい。



コーム

梳かす用のブラシとは別に、毛先を整えやブロッキングなどセットの際にあると便利なクシ。100円ショップのものでもOK。



ハードスプレー

ウィッグ専用スプレーでなくてもOK。水気の少ないタイプの髪用ハードスプレーは安価でキープ力が強く、ウィッグセット向き。



マツワックス

ウィッグの毛をまとめるためのワックスはマツタイプを選ぼう。
※水気の多いワックス(ゆるふわ向けなど)はウィッグの毛には柔らかすぎず使いにくい。



ヘアドライヤー

普通のドライヤーでOK。ヘア用の高価なドライヤーは温風があまり熱くならないのでかえって使いにくいので、2000円以下のコンパクトタイプがおすすめ。



ヘアアイロン

ストレート用のものは毛のうねりやたたみグセ、簡単な外ハネ・内ハネも作れる。電源の使えるスタジオなどであれば帰りの地毛直しにも使えるので便利。



あと便利な 小技アイテム

リングゴム

アホ毛を立てたり三つ編みを作る時に。100円で大量に入っているのがお得。
※通常の太いヘアゴムはウィッグの毛をまとめるようにすると滑りやすいのでキッチリセットには不向き。



保冷材

ウィッグの生え際などをドライヤーで熱した後に急速冷却して形状記憶させるときに。ケーキなどの保存用にも使える保冷剤を2〜3個冷凍庫に保管しておこう。



水のり

顔のサイドに毛を貼りたい時などに。つけまのりやアイプチのりや違い、水で洗い流せるのでウィッグが傷みにくい。
※肌質によってはのりがかぶれやすい場合があるので、使用する前にパッチテストを忘れずに!

ウィッグのお手入れ方法



ウィッグスプレーで湿らせ、ブラシで全体の絡みをとる



紙を丸めたもの(あんこ)をウィッグの中に入れる



ロングウィッグやカールウィッグはリボンなどで束ねる

Q: 入れ物はどうすればいい?

A: 空気穴を開けたジッパー式の袋に入れて収納すると通気性がある。Q。キャラのプリントを同封したり、袋にキャラ名を書いておくと次回探すときに便利!



購入時に包まれていた黒いカバーに入れ、保管中の絡みや汚れを防ごう

ウィッグを付ける前に ネットで土台作り



ウィッグネットを首まで通したら、髪を通してヘアバンド風に額まで持ち上げる。太い方が額の生え際に当たる



帽子のように被って地毛をネットの中に入れ、ヘアピンでウィッグネットと地毛を固定する、額の上、耳周り、うなじにがっちりホールドする



髪が長い人は中に入れ込む。三つ編みやくるくる巻きにして、頭部の丸みに沿って毛のボリュームを均等にしよう



水泳帽程度のフィット感までウィッグネットを引き上げ、トップの空き部分を頭にピンで留める



はみ出した地毛を丁寧に入れ直す。特に耳後ろからうなじにかけては気付きにくいので注意

ウィッグネットの色は?

黒、ベージュなどウィッグを購入した時に付属しているネットが良いが、ウィッグに合わせるのが無難。金や白など、色素の薄いウィッグならベージュや白のネットを使うと◎

ここから本番 ウィッグの付け方



ウィッグの前髪部分を親指と他の指ではさんで持つ。親指が内側



後ろから前へスライドさせ、額にウィッグ前髪の生え際を固定する



片手だけ離し、ウィッグの後ろ側を指で頭に被る



頭とウィッグの隙間をチェックし、中に巻き込んでしまった毛をだす。同時にはみ出てきた地毛とネットをウィッグの下に収納する



ウィッグブラシなどでウィッグの毛並みを整える



ロングウィッグは束ねたままかぶってしまう



撮影の直前に外すとサラサラキープ